

令和3年度 狛江市におけるいじめ・不登校等の調査結果について

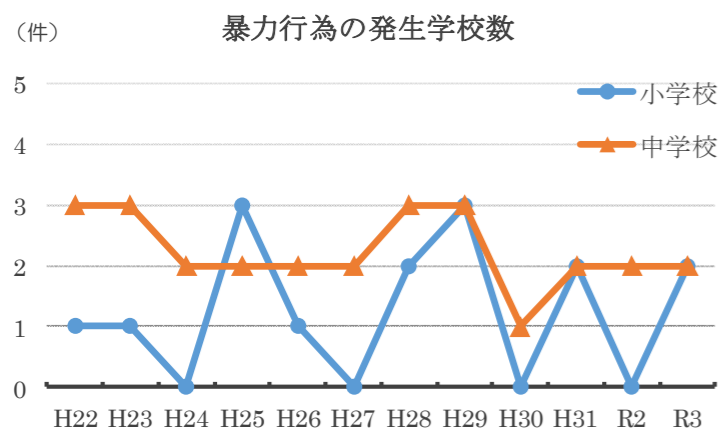
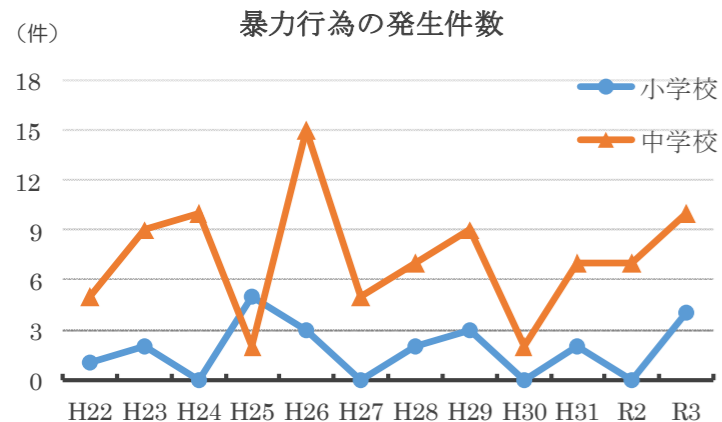
令和4年11月29日
庁議資料

<調査の目的>

本調査は、児童・生徒の問題行動や不登校等について、市内公立小・中学校の状況を調査・分析することにより、教育現場における生活指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、本調査を通じて、実態把握を行うことにより、児童・生徒の問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に繋げていくものとする。

市内小学生 人数(人)	平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度	3年度
	3197	3183	3223	3246	3267	3394	3518	3622	3701
市内中学生 人数(人)	平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度	3年度
	1296	1317	1331	1349	1360	1320	1286	1289	1365

暴力行為



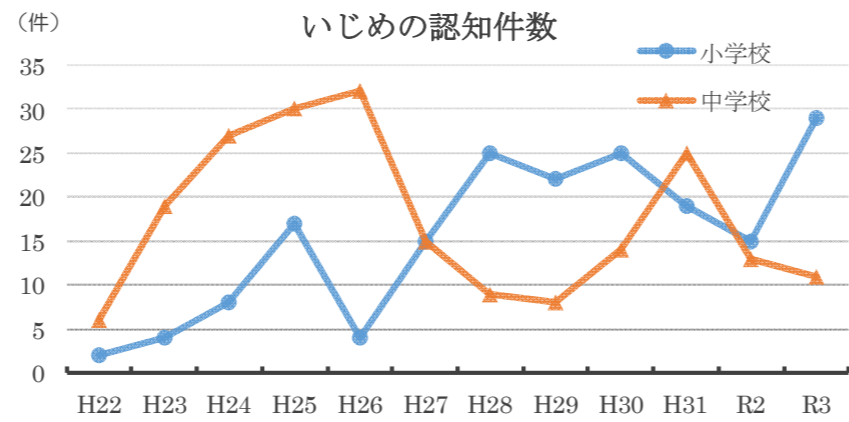
【調査結果の報告】

小学校では令和2年度に0件であったが、令和3年度は4件の報告があった。中学校では令和2年度に7件であったが、令和3年度は10件の報告があった。

小・中学校合計14件の暴力行為の内、「生徒間暴力」が13件、「対教師暴力」が1件であった。「生徒間暴力」については、ふざけやからかい、口論等の些細な原因から発生していた。良好な人間関係を構築するためには、Q Uの結果等を活用し、教員間の丁寧な情報共有を基礎とした学級経営の安定を図る必要がある。

「対教師暴力」については八つ当たりが原因であった。家庭や特別支援教室と連携し個別に支援するとともに、自身の感情をコントロールし、落ち着いた行動ができるようアンガーマネジメント等の手立ても含めた継続した指導が必要である。

いじめ



区分	学校総数	認知した学校数	認知していない学校数	認知件数
小学校	6	6	0	29
中学校	4	4	0	11

区分	小学校	中学校
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	17	8
仲間はずれ、集団による無視をされる。	7	1
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをそてたかれたり、蹴られたりする。	7	4
ひどくぶつかられたりたかれたり、蹴られたりする。	0	0
金品をたかられる。	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	3	0
嫌なこと恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	4	0
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	1
その他	0	0

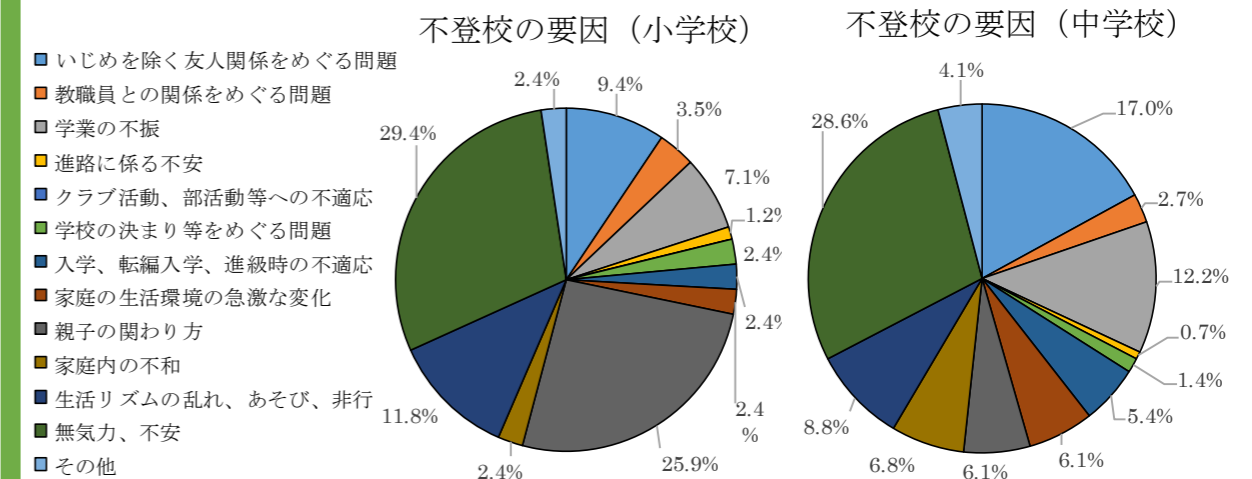
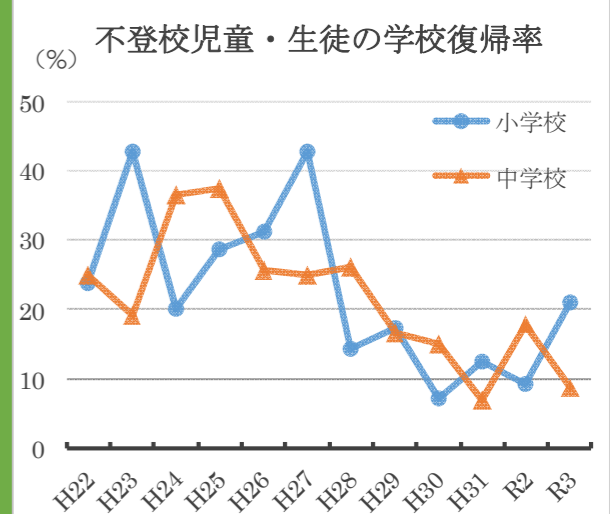
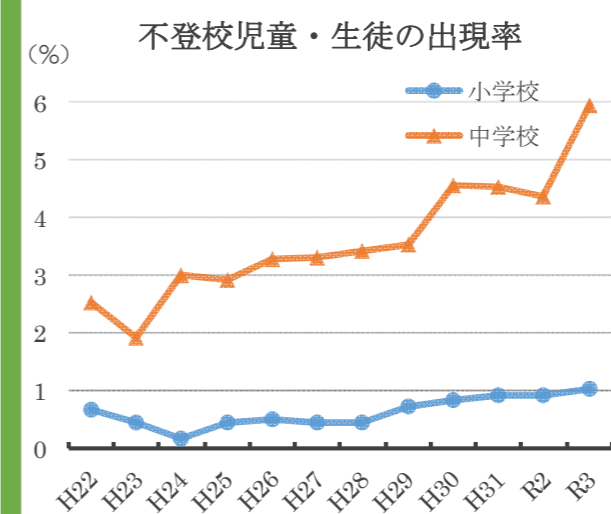
【調査結果の報告】

小学校では平成30年度をピークに減少傾向にあったが、令和3年度は29件と増加した。男女別内訳としては、男子24件、女子5件と男子に多く発生した。学年別では、中学年以降の発生がほとんどで、特に第3学年で10件、第4学年で6件と、中学年の発生件数が全体の半数以上を占めた。中学校では、令和2年度から2件減り、11件の認知件数であった。男女別によるいじめの認知件数の差異はほとんどなかったが、学年別では、第1学年が7件と多く発生した。

いじめの様態としては、小・中学校共に、冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるが最も多かった。

いじめは適切に認知して早期解決を図ることは当然であるが、未然防止に向けて家庭や地域との連携による体制づくりが大切である。

不登校



【調査結果の報告】

不登校児童・生徒の出現率は、小学校では平成29年度から微増傾向となっている。中学校では、平成30年度をピークに減少傾向となっていたが、令和3年度は増加した。

不登校児童・生徒の学校復帰率は、小学校では、令和2年度より約12%増加、中学校では約9%減少した。

不登校の要因は、小・中学校共に「無気力・不安」が約3割を占めた。次に、小学校では「親子の関わり方」、中学校では「友人関係をめぐる問題」が多かった。

不登校の対応としては、文部科学省が令和元年10月に示したとおり、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、社会や学校との関係を保ちつつ、児童・生徒が自らの進路を主体的にとらえて社会的に自立を目指すための支援が求められる。

また、タブレット端末の活用や関係機関との連携を一層重視する必要がある。